

環境委員会

G) Committee on the Environment

委員 木下 誠也*

1. 出席者

環境委員会は、6月4日(月)、国立京都国際会館1階G会議室にて開催された。日本からは特任委員として木下誠也(愛媛大学)、白井明夫(財団法人ダム水源地環境整備センター)が出席した。このほか、国際協力委員の天明敏行(株間組)、山田裕之(戸田建設(株))、和田一斗(株建設技術研究所)の3氏がオブザーバーとして出席した。

環境委員会には、委員10名(8ヶ国)、オブザーバー13名(委員参加の3ヶ国のほか5ヶ国)の合計23名(13ヶ国)が参加した。

2. 議 事

1) 挨拶等

馬場恭平委員長欠席のため、ジャンピエール・シャバル副委員長(フランス)が議長を務め、開催の挨拶を行った。馬場委員長の退任に伴う挨拶文が紹介され、馬場委員長に対する各国委員の署名入りの感謝状が作成された。

2) 検討課題に対する議事

2007年から2012年の期間における環境委員会の検討課題のうち残されたTOR-3の状況について報告されるとともに、検討期間を2012年から2015年とする新たな検討課題について議論された。

(1) TOR-3(ポジション・ペーパーの改訂・更新に係る追加・補足資料)について

ICOLD ポジション・ペーパー「ダムと環境」の補遺として日本チームが作成した「地球規模の環境問題とダム」の原案を、ICOLD 所属の各国大ダム会議の承認を得るために、2012年2月にICOLD 事務局に提出し、これに対して、南アフリカとスイスから幾つかの指摘があった旨の説明がなされた。こ

れらの指摘に対しては、オーストラリアとフランスの協力のもとに、日本が対応することとなった。

(2) 新規検討課題について

新規検討課題としては、以下の3つがあげられた。

- ・計画・設計段階における環境配慮事例
- ・水力発電の環境問題
- ・ダムの社会経済効果の事例

各課題に対する議事は以下のとおりである。

① 計画・設計段階における環境配慮事例

この課題は、「ダムを戦略的に計画立案する際の環境面の考慮」について焦点を当てる。これには、ダムの設計チームと環境影響評価チームとが、適切な時期に適切に協力する方法が含まれる。より明確な定義は、フランス・オーストラリア・ニュージーランドで構成されるチームで検討する。

② 水力発電の環境問題

この課題は、水力発電が及ぼす下流の環境や社会への影響を低減するための最新技術に焦点を当てる。より明確な定義は、カナダ・ニュージーランドで構成されるチームで検討する。

③ ダムの社会経済効果の事例

この課題については、適切な事例を抽出する方法と収集すべきデータのフォーマットを規定する必要がある。これは、カナダをリーダーとするブラジル・日本・スウェーデンで構成されるチームで検討する。

3. 委員会における配布資料

資料1 委員長書信(退任挨拶)

資料2 議事次第

資料3 ポジション・ペーパー「ダムと環境」補遺原稿案

資料4 補遺に対する南アフリカの指摘事項

資料5 補遺に対するスイスの指摘事項

資料6 新規検討課題案



環境委員会



右写真の左奥端から木下委員・白井委員・シャバル副委員長

* 国立大学法人愛媛大学 防災情報研究センター 東南海・南海地震研究部門長 教授